

# 美濃街道

## 美濃街道の概要

美濃街道は、一般に尾張の東海道宮宿と美濃の中山道垂井宿を結ぶ脇街道を指すが、桑名からも長良川の右岸に沿って美濃国に至る街道が開けていた。七里の渡しから東海道を200メートルほど南下し、川口町と江戸町との境で東海道と分かれて西へ向かうその道は、三崎通り、堤原を経て再び左右に分かれる。左側は照源寺や桑名駅へ向かう八丁縄手と称する道、右側は美濃・多度方面へ向かう福島縄手と称する道である。江戸時代後期の文化元年（1804）に刊行された『久波奈名所図会』は、この場所を「傍示石、堤原西ノ口にあり、美濃へ往還の道標なり、寛保二年戊（1742）五月建、右ミの道とあり」と解説している。

現在、東海道との分岐点に建っている道標は、弘化4年（1847）の建立で、「右みの多度みち」に加え、「左すてん志よみち」と彫り込まれている。「すてん志よ」とは、ステーションつまり駅のこと、明治28年（1895）に関西鉄道（現JR関西本線）桑名駅が開業し、左に進む道が駅に行く幹線道路となったため、従来からあった道標に新しく彫り加えたのだろう。「右みの多度みち」の書体や彫りの深さと、若干の違いが見られる。

この美濃街道を多度道と称する人もいるが、正確には美濃街道が途中で多度道に分かれたものである。桑名は揖斐・長良・木曾の三大河川の河口に位置するため、上流の美濃地方との水運による交易が盛んであった。

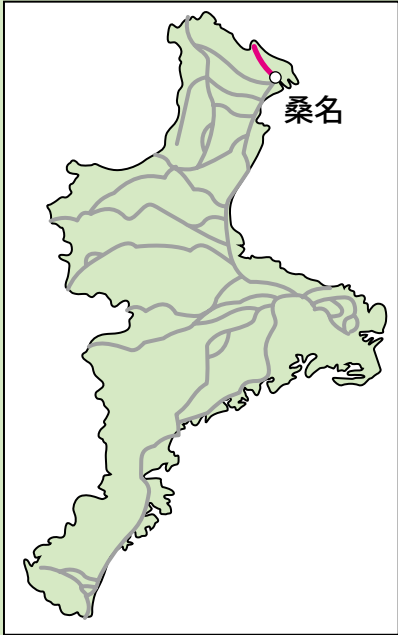
福島縄手を行く街道は、すぐに国道1号と重なり、住宅や商店、小工場などの市街地が続くが、大正時代までは一面に田が広がる道であったが、昭和7年に国道ができてから町並みを形成するようになっていった。その国道も1キロメートル足らずで東へ分かれてゆき、街道は国道258号の西側を養老鉄道線沿いに進む。

桑名市の多度町戸津は、古い町並みがよく残っており、代々庄屋を務めていた西田家の長屋門と堀は風情が漂う。戸津から多度川を渡って西に200メートルほど進んだ三叉路には、多度大社に参詣する人のための道標があり、東側には「すぐ多度道」と刻まれ、西側には多度大社からの帰路を教える「右つしま左ミの道」が刻まれている。



# 木曾三川の右岸をいく 美濃街道

美濃国へと続く道。



歩く速さで見えてくるものがある。  
 歩くからこそ出会うものがある。  
 いにしへの旅人の速さで、視点で  
 歴史の道をたどってみよう。

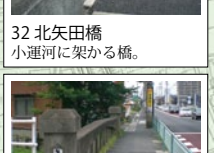
◆ 目次	1
美濃街道の概要	2
美濃街道のルート	4
(1) 桑名	6
(2) 東込上	8
(3) 下深谷部	10
(4) 下野代	12
(5) 戸津	14
(6) 柚井	14

# (1) 桑名

(桑名市川口町・江戸町～東方)



31 中矢田橋  
小運河に架かる橋。



32 北矢田橋  
小運河に架かる橋。

29 照源寺  
寛永元年(1624)に桑名藩主松平定勝死去のため子定行が創建。以後松平家の菩提寺として存続してきた。山門は桑名市指定文化財。



30 高浜虚子・星野立子句碑



28 矢田野橋  
小運河に架かる橋。



26 石碑  
昭和7年(1932)のもの。「参宮国道」。江戸時代は田んぼの中の道だった。



25 福島繩手  
北西へ右折。美濃・多度方面への道。

ここから約700m、国道1号沿いを進む。



10 袖野山浄土寺



12 六華苑



13 三崎見附跡  
三崎通の西端には、江戸時代まで三崎御門があった。御門の外は城下の外郭堀だった。



6 山口誓子句碑



5 山口誓子句碑



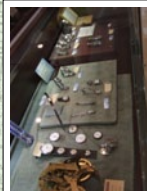
3 東海道と美濃街道の分かれ道  
川口町の渡し船場から約200m南。川口町と江戸町との境。三崎通。



4 久保田万太郎句碑



2 葛山たけし句碑



27 時計屋ネット  
(時計修理所)



23 多度両宮常夜燈  
安政3年(1856)のもの。道標の横にある。約350人におよぶ寄進者の名前が彫られている。



21 北桑名神社



18 法性山海蔵寺



19 季節館



16 しぐれ工房(貝新フーズ)



14 懐かし堂



20 ちっちゃな美術館



17 町の小さな博物館



15 松尾芭蕉句碑



1 土生晝帝句碑



7 かぶら絵館



9 桑名市博物館



8 石取会館

- 地図内凡例
- 道標など
  - 常夜灯
  - 神社・仏閣・城址など
  - 地藏など
  - 句碑
  - その他文化資産等
  - まじかど博物館
  - 博物館・資料館
  - まちがえやすい分かれ道
  - バス停
  - トイレ

## (2) 東汰上

(桑名市福島～下深谷部)



### (3) 下深谷部 (桑名市下深谷部～上深谷部)



12 明光寺  
もとは奥州蛸原(えびはら)にあったが、中世頃、移ってきたと伝えられる。



10 森大明神  
かつて堺城のあった丘陵の中腹にある。往時は北伊勢小島大森大明神と称していた。



9 常夜燈  
森大明神の参道の両側に二基一対で建っている。



11 堺城跡  
森大明神の背後。郭・土塁が残っている。



7 法光寺



13 上深谷部を行く街道



8 地藏堂  
街道の左側。古くはもう少し北の街道際にあったが、明治の頃に現在地に移転。堂はその時建てたものといわれる。しかし、地藏像は新しい像のように思われる。



6 地藏堂  
昭和52年(1977)のもの。街道右側にあり幼児の交通事故の供養の地藏。



5 西林寺  
深江神社の西側。背後の山には西林寺古墳、北廻(きたはざま)城跡がある。



4 深江神社  
養老鉄道養老線を渡った南側。



2 南楽寺  
左側の細い道を30mほど西へ入ったところ。正保2年(1645)に現在地へ移ってきた。



3 角の地藏  
流石川の右岸堤防上にある。街道が橋を渡らずに曲折する地点であるため、地元の人々は「角の地藏」と呼ぶ。しかし、安置されているのは阿弥陀如来立。



1 和太鼓博物館

- 地図内凡例
- 道標など
  - 常夜灯
  - 神社・仏閣・城址など
  - 地藏など
  - 句碑
  - その他文化資産等
  - まちかど博物館
  - 博物館・資料館
  - まちがえやすい分かれ道
  - バス停
  - トイレ

落ち着いた古い町並みが続いている。

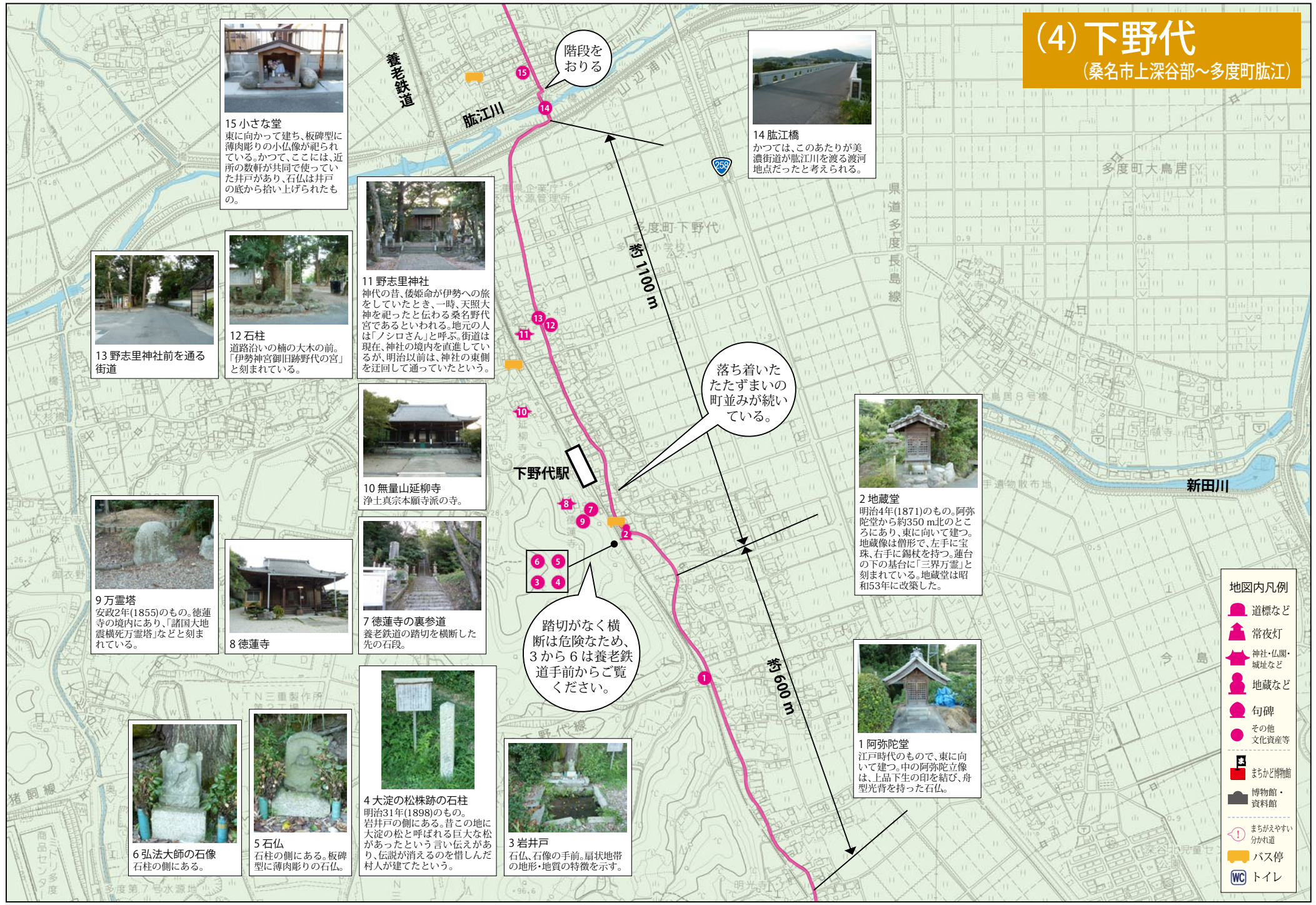
下深谷駅

約900m

約300m

# (4) 下野代

(桑名市上深谷部～多度町脇江)



**15 小さな堂**  
東に向かって建ち、板碑型に薄肉彫りの小仏像が祀られている。かつて、ここでは、近所の数軒が共同で使っていた井戸があり、石仏は井戸の底から拾い上げられたもの。



**13 野志里神社前を通る街道**



**12 石柱**  
道路沿いの楠の大木の前。「伊勢神宮御旧跡野代の宮」と刻まれている。



**11 野志里神社**  
神代の昔、倭姫命が伊勢への旅をしていたとき、天照大神を祀ったと伝わる桑名野代宮であるといわれる。地元の人には「ノシロさん」と呼ぶ。街道は現在、神社の境内を直進しているが、明治以前は、神社の東側を迂回して通っていたという。



**10 無量山延柳寺**  
浄土真宗本願寺派の寺。



**7 徳蓮寺の裏参道**  
養老鉄道の踏切を横断した先の石段。



**9 万霊塔**  
安政2年(1855)のもの。徳蓮寺の境内にあり、「諸国大地震横死万霊塔」と刻まれている。



**8 徳蓮寺**



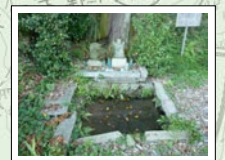
**6 弘法大師の石像**  
石柱の側にある。



**5 石仏**  
石柱の側にある。板碑型に薄肉彫りの石仏。



**4 大淀の松株跡の石柱**  
明治31年(1898)のもの。岩井戸の側にある。昔この地に大淀の松と呼ばれる巨大な松があったという言い伝えがあり、伝説が消えるのを惜しんだ村人が建てたという。



**3 岩井戸**  
石仏、石像の手前。扇状地帯の地形・地質の特徴を示す。

踏切がなく横断は危険なため、3から6は養老鉄道手前からご覧ください。

階段をおりる

落ち着いたたたずまいの町並みが続いている。



**14 脇江橋**  
かつては、このあたりが美濃街道が脇江川を渡る渡河地点だったと考えられる。



**2 地藏堂**  
明治4年(1871)のもの。阿弥陀堂から約350m北のところにあり、東に向けて建つ。地藏像は僧形で、左手に宝珠、右手に錫杖を持つ。蓮台の下の基台に「三界万霊」と刻まれている。地藏堂は昭和53年に改築した。

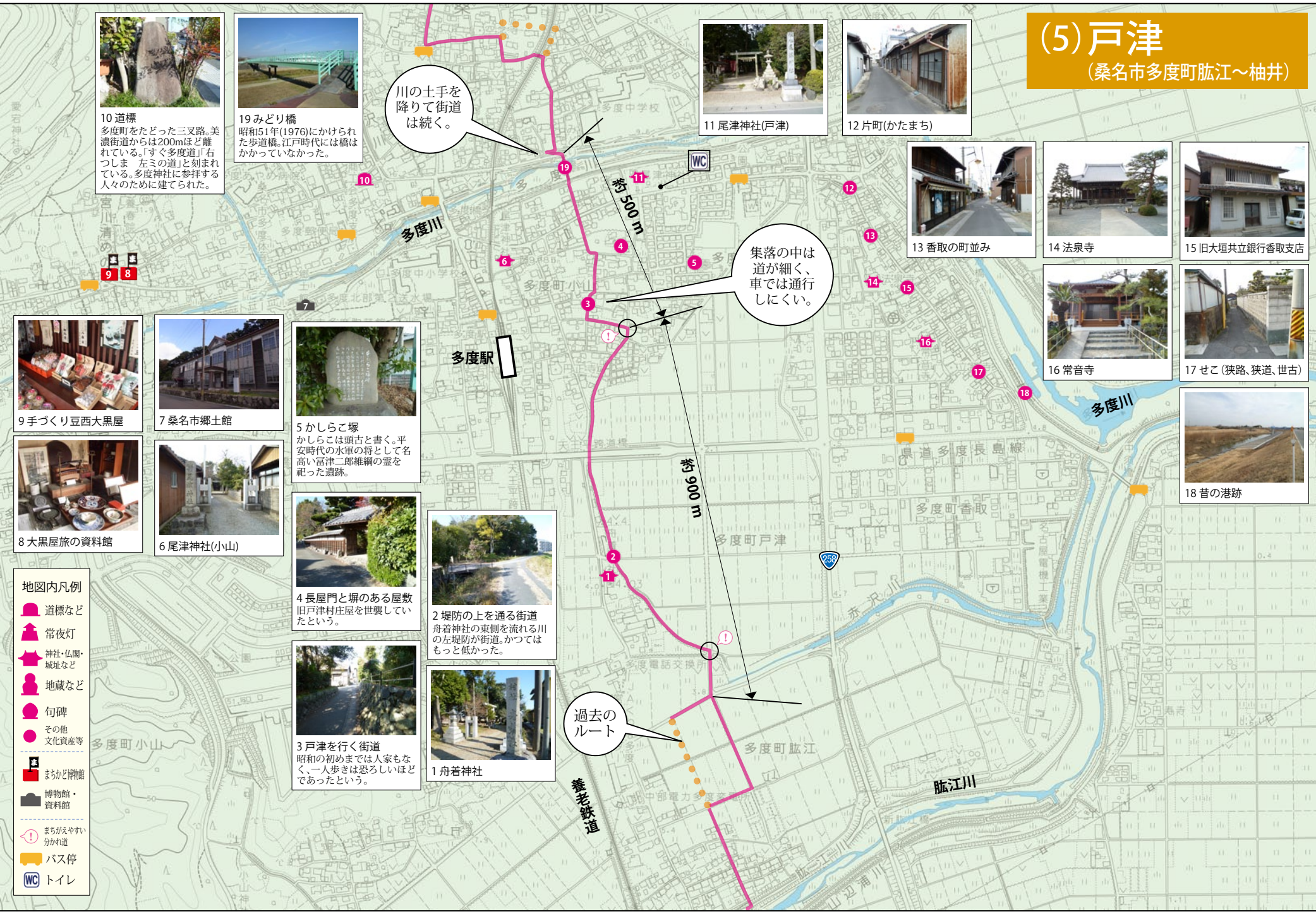


**1 阿弥陀堂**  
江戸時代のもので、東に向けて建つ。中の阿弥陀立像は、上品下生の印を結び、舟型光背を持った石仏。

- 地図内凡例
- 道標など
  - 常夜灯
  - 神社・仏閣・城址など
  - 地藏など
  - 句碑
  - その他文化遺産等
  - まちかど博物館
  - 博物館・資料館
  - まちがえやすい分かれ道
  - バス停
  - トイレ

# (5) 戸津

(桑名市多度町肱江～柚井)



川の土手を降りて街道は続く。



集落の中は道が細く、車では通行しにくい。



多度駅



- 地図内凡例
- 道標など
  - 常夜灯
  - 神社・仏閣・城址など
  - 地蔵など
  - 句碑
  - その他文化資産等
  - まかど博物館
  - 博物館・資料館
  - まちがえやすい分かれ道
  - バス停
  - トイレ



過去のルート



